

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

東京都 北区立稲付中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年9月18日（火）

■ク ラ ス：2年2組（38名）

■オリンピアン：足立 夢実 先生（水泳・シンクロナイズドスイミング 現 水泳・アーティスティックスイミング）【出場オリンピック／ロンドン大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、アーティスティックスイミングとはシンクロナイズドスイミングから名称が変更された競技であることを説明。今日のオリンピック教室では、3つのオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）について学んでいきたいと授業の目的を伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班対抗で3種混合リレー（ボール送り、ボール転がし、ほふく前進・後ろ向きリレー、2回目は片足ジャンプ・後ろ向きリレー）を実施。足立先生から、1回目の結果を受けて皆で考え、協力して2回目にも臨んでいた、と生徒を称えた。

4. まとめ



・次の座学の時間はオリンピックバリューについて詳しく学んでいきたいと、冒頭で予告したことを改めて伝え、授業を終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・出場したロンドン大会の雰囲気や伝わるような競技中や聖火等の写真と同大会で着用した水着を見せながら競技について説明。
 現在は男女混合のミックスデュエットという種目で世界水泳選手権大会を目標に練習に励んでおり、今日の授業を機にアーティスティックスイミングに興味を持ってほしいと伝える。

3. グループワーク



発問：合唱コンクールで良い合唱をするため、また良い成績を残すために何が出来るかを考えて書き出してみる。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
 エクセレンス：「努力を重ねる」「諦めない」等
 フレンドシップ：「仲間を信じる」「協力し合う」等
 リスペクト：「全ての人に感謝する」「歌えることに感謝する」等

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、日常生活にも当てはめることができる。スポーツは、競技者、観戦者、支える人全ての人にとって人生を豊かにする素晴らしいものである。東京2020大会の開催が近づいてきたが、興味や意欲を持って向き合ってもらいたいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成30年9月18日（火）

■ク ラ ス：2年1組（37名）、2年3組（38名）

■オリンピアン：狩野 舞子 先生（バレーボール）【出場オリンピック／ロンドン大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・自己紹介の後、オリンピックを身近に感じられるように、オリンピックバリューを伝えていきたいと授業の目的を説明。「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つのオリンピックバリューを紹介し、これらを意識して授業を受けてほしいと伝えた。運動の時間はバレーボール経験者も未経験者もバレーボールという競技に触れてほしいと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・6班対抗でバレーボールのパス回しを実施。狩野先生より「パスをする時は次の人に渡すイメージをしっかりと持って丁寧に」等のアドバイスが送られた。

4. まとめ



・バレーボール競技は「次の人が取りやすいボールを渡す」「前の方がミスしたら、後ろの人がそれをカバーする」というように、思いやり・助け合いの気持ちが大切なスポーツである。運動の時間でも、皆がお互いに思いやりを持ち、目標達成に向けて班で話し合い、良い作戦を立てながら臨んでいたと生徒を称える。座学の時間はオリンピックやオリンピックバリューについて、狩野先生自身の経験も踏まえながら紹介するので、オリンピックについてのイメージを膨らませて臨んでほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルが何を表しているかを生徒に問い掛け、その意味（5大陸と6色）を説明し、ロンドン大会の写真を見せながら自己紹介。表彰式において銅メダルを首にかけてもらった当時の心境等を伝えた後、自身の経験を通して3つのオリンピックバリューを伝える。

3. グループワーク



発問：今やってみたいこと、将来何をやりたいか、オリンピックバリューに当てはめて書き出してみる。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
 エクセレンス：「練習が厳しくても最後まで諦めない」等
 フレンドシップ：「パート練習をしっかりと行ってお互いにアドバイスし合う」等
 リスペクト：「練習を行える環境に感謝し、楽器にも感謝する」「相手の考えを尊重する」等

4. まとめ



・オリンピックバリューは日常生活の中にも見出すことができる。自分はどうなりたいという目標を立て、そのために今から何をすべきか考えることが大切である。東京2020大会が2年後に迫っているが、生きているうちに自国でオリンピックが開催される機会は滅多にない機会である。今まで見たことのない競技もいろいろ見て、その中でオリンピックバリューを感じてもらえたら嬉しいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年3組



2年2組



■ 修了証贈呈

